

令和元年度 放課後等デイサービス事業 事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和2年 1月 24日

事業所名 くらむぼん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	✓		・施設内の活動に終始せず、公共施設等の活用もしている。	・継続的な事業の安定化が図れる見通しがあれば、活動環境が充実できる場に移転はしたい。
	②	職員の配置数は適切であるか。	✓			・支障はない。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	✓			・大きく構造的な支障はない。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓		・常勤スタッフは法人内の部会に所属して、業務改善や仕組み作りに参画している。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	✓		今年度は国評価に含まれない設問を盛り込んだオリジナル評価シートの取り組みも行った。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	✓		法人のHPでの公表、事業所内で壁面掲示を行った。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓		・第三者評価の導入は、法人全体で検討を要する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	✓		・事業所内、部門内、法人内、外部研修と機会を設けている。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		・日々の迎え時のやり取り、面談時で状況を共有し、計画策定を行っている。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	✓		・児童部門共通のアセスメントシートを作成している。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		・日々の活動内容の策定、長期休暇中と、活動内容は意見を交わして策定をしている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		・曜日により活動の大枠が決まっているが、内容はほぼ毎週変えている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	✓		・⑫と同様。個々の状況によって、個性を持たせている。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓		・子どもの状況により、オリジナル活動や到達目標を設定している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	✓		・活動前、活動ごとに内容、役割を確認している。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。		✓		・活動終了時点のその日には勤務時間の都合で振り返りはできないが、翌日等で振り返りや気づきの共有は行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証、改善につなげているか。	✓			・記録業務の文章表記について、現在法人内ルールを整備中。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	✓			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか。	✓			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか。		✓		・一人の子どもが一つのサービス利用が基本なので、サービス担当者会議が設定されていない。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	✓		・学校のHPや必要に応じての連絡で、情報共有を行っている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。		✓		・医療的ケアを要する方の利用の問い合わせがあっても、環境面、設備面で困難である。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓			・今後も移行時、移行後と必要に応じて連携を取っていく。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		✓		・開所以降、移行者、移行予定者はいない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。		✓	・設問機関による研修は受けていないが、研修テーマに沿った外部講師は招聘している。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。		✓		・双方の時間的、人力的に機会確保が難しい。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	✓		・部会活動に対しても企画、提案を行っている。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		・各家庭に利用を終えての迎えをお願いしているメリットとして、日々の状況を共有できる。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか。		✓		・必要な助言や提案を行ってはいるが、ペアレントトレーニングではない。
保護者への説明責任等	⑳	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	✓			・適切な相談対応と言えるかは分からないが、問合せのあった事には誠実に対応をしている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	✓			・保護者会、保護者向けの研修を開催しているが、時期にもよるのか今年度は参加者が少なかった。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		・日々の保護者とのやり取りで、対応を要することは速やかに共有できている。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓			・事業所情報をタイムリーに発信する方法は工夫ができそう。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか。	✓			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のために配慮をしているか。	✓		・見本の提示、視覚的な情報提示は必要に応じて行っている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか。	✓		・企画する研修は地域への一般公開としている。	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか。		✓		・職員には周知をしているが、利用者家族には周知していない。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		・法人一斉訓練を毎年度行っている。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		・県主催の虐待防止研修の伝達研修、法人の人権研修と機会を得ている。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		✓	・法人として行動抑制に関する指針を定めている。	・身体拘束を必要とする子どもの利用は未だない。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		✓		・除去食を要する子どもの利用は未だないが、アレルギーの既往は最新の情報を得て把握しておく必要がある。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	✓		・毎月の会議で前月の事故報告等の共有をしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。